

令和7年度全国重症心身障害日中活動支援協議会北海道地区研修会報告

地 区 名	北海道	開 催 日	令和7年 7月26日 (土)
開催場所	かでの2・7 [札幌市中央区北2条西7丁目]	参加人数	84名
担当施設	事業所 虹・大倉山学院		

【プログラム】

12:15 ～ 13:00 受付
 13:00 ～ 13:10 開会・挨拶
 13:10 ～ 14:50 ワークショップ・基調講演
 14:50 ～ 15:00 休憩
 15:00 ～ 16:30 実践報告
 16:30 ～ 16:40 閉会・挨拶

【内 容】

社会福祉法人札幌緑花会 出店正隆理事長の挨拶により開会した。

続いて、特定非営利活動法人アート・ウイズ・ライト 臨床美術 土門環氏による基調講演が行われた。はじめに「臨床美術」の概要を把握するため、約5分間の紹介動画を上映した。その後、「二人で描く線と色のアナログ画」と題したワークショップが実施され、参加者は二人一組となり、画用紙に自由な線や色を描き加えながら、作品を完成させた。

ワークショップに続き、基調講演「臨床美術といってくれてありがとうが醸し出す現場力 Part II」が行われ、「臨床美術」が人とのつながりを生む力を持つことについて学ぶ機会となった。

実践報告に移り、本年度は7演題の発表が行われた。

所 属	発表者	演題名
相談室りんく	相談員 日野 未香 氏	「園芸療法」の効果と期待
北広島コラボ	生活支援員 大江 珠子 氏	利用者様の「言葉」には表れない想いにふれる
デイ緑ヶ丘	保育士 瀬戸 彩和代 氏	みんなで迎えたハタチの日 ～新成人を多職種と家族でお祝いして～
大倉山学院	理学療法士 佐藤 晃一 氏	重症心身障害児への「F-words」を活用した多職種連携支援の取り組み
旭川通園事業所	保育士 山本 桐子 氏	新しい活動を楽しむ意味を考えて～美活・バレンタイン活動から見たもの～
滝川通園事業所	サービス管理責任者 山下 夏樹 氏	「頼る事」からはじめた地域連携の第一歩
生活介護ひかり	看護師 笹熊 幸 氏	在宅重症心身障害者における重症化と生活介護における支援について

最後に社会福祉法人北ひろしま福祉会理事長 渡邊憲介氏の挨拶をもって閉会した。

【まとめ】

参加者アンケートの結果をもとに、以下のとおり報告する。

○ ワークショップおよび基調講演について

- ・これまでに知る機会のなかった内容であり、楽しく参加でき、実践してみたいと感じた。
- ・利用者さんとともに楽しみながら、自由にオイルパステルを動かしてもらいたかった。
- ・「可能性」は支援者によって広げられることも狭めることもあるという気づきが得られた。
- ・褒める際には「強い線だね」など、具体的な言葉を用いて相手に伝えることを心がけたいと感じた。

○ 実践報告について

- ・各事業の取り組みを知ることができ、今後の実践への励みとなった。
- ・相談員や理学療法士など、多職種による発表が参考となった。
- ・各事業所の熱意が伝わる内容であった。
- ・貴重な機会であるため、今後は会員以外の施設職員にも参加を呼びかけてはどうか。

本研修会では、「臨床美術」に触れることができ、各事業所の実践も知ることができた。
 今後の支援に活かせる有意義な内容であった。